

新小谷木橋 NEWS

【Vol.1】 平成28年6月発行 編集：県南広域振興局土木部



世界遺産平泉
PRキャラクター「ケロ平」

県南広域振興局土木部では、県が「復興支援道路」として奥州市水沢区で事業を進めている一般国道397号小谷木橋工区について、「事業の見える化」の取組みとして、進捗状況等をお知らせする「新小谷木橋 NEWS」を発行することとしました。

今後、定期的に「新小谷木橋 NEWS」を発行し、小谷木橋工区の進捗状況等をお知らせします。

～小谷木橋工区の事業計画について～

一般国道397号の小谷木橋（595.3m）は、東北新幹線水沢江刺駅や鋳物工場等が立地する奥州市水沢区羽田町地区と奥州市中心部を結ぶ重要な橋梁です。

また、一般国道397号は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災津波の際、内陸部と大船渡市や陸前高田市を結ぶ道路として、自衛隊や消防、救援物資の輸送等に重要な役割を果たしました。

しかし、小谷木橋は、橋の幅員が狭く大型車のすれ違いが困難であるほか、昭和29年の架橋から60年以上が経過して老朽化が進んでおり、安全で円滑な交通の支障となっています。

さらに、平成23年4月7日に発生した東日本大震災津波の余震では、小谷木橋の橋脚が傾き、約4ヶ月間の全面通行止めとなるなど、甚大な被害が発生しました。

このため、県では、岩手県東日本大震災津波復興計画（三陸復興道路整備事業）で一般国道397号を「復興支援道路」として位置付け、小谷木橋の架替え（（仮称）新小谷木橋：597.0m）を含む小谷木橋工区の整備を重点的に進めています。

小谷木橋工区の事業計画





～ (仮称) 新小谷木橋の下部工 (P1、P2、P3) 工事が進んでいます! ～

小谷木橋工区の整備では、老朽化が進んでいる小谷木橋の架替えを行います。

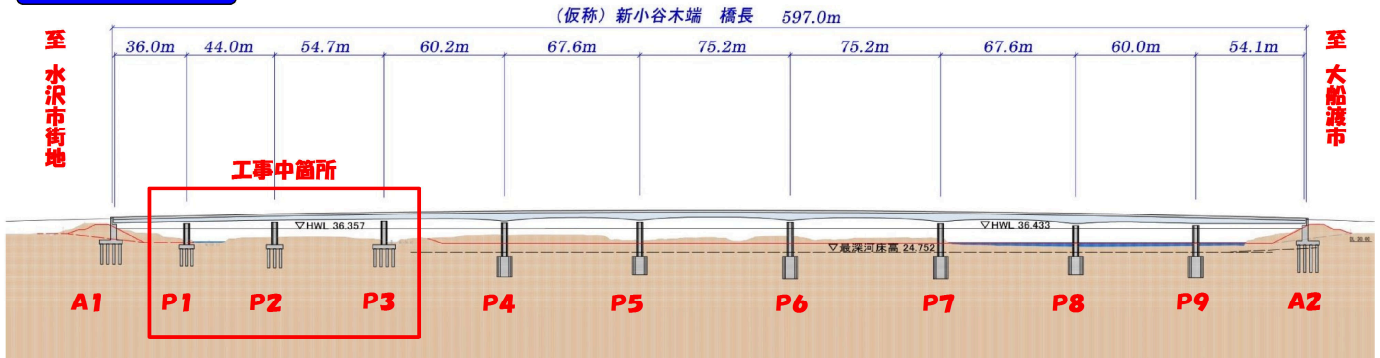
新しい橋 ((仮称) 新小谷木橋: 597.0m) は、現在の小谷木橋から約 130m 上流に架橋し、橋の幅は現在の小谷木橋の8m (車道: 6m、歩道: 2m (片側)) から 15m (車道: 8m、歩道 3.5m (両側)) に広がります。

((仮称) 新小谷木橋には、橋を支える橋台2基、橋脚9基を設置し、現在、橋脚3基 (P1、P2、P3: 北上川右岸側から数えて1～3番目の橋脚) の工事を進めており、平成 28 年7月に完成予定です。

今年の秋頃からは、橋台1基 (A1: 北上川右岸側の橋台) と橋脚3基 (P5、P7、P9) の工事を進める予定としています。

(仮称) 新小谷木橋の計画

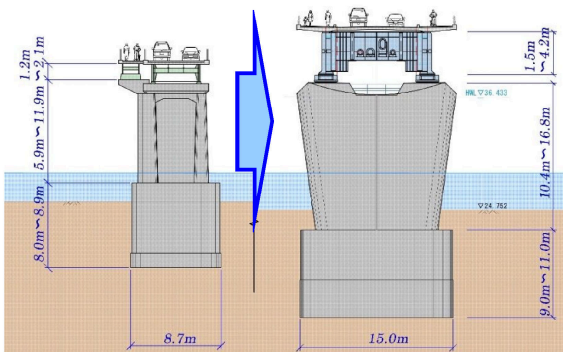
橋梁側面図



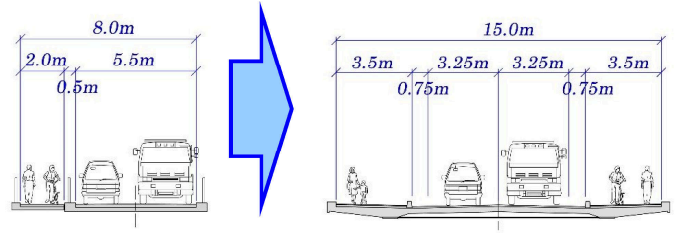
橋梁計画

名称	構造	
(仮称) 新小谷木橋	延長 (m)	597.0
	上部工	鋼10径間連続合成2主鉄桁
	下部工	逆T式橋台 (杭基礎) 壁式橋脚 (杭基礎、ケーソン基礎)

橋梁断面図



標準断面図(橋梁部)



(仮称) 新小谷木橋の工事状況



P3橋脚の工事状況





～奥州市立羽田小学校の現場見学会を開催しました！～

小谷木橋工区では、奥州市立羽田小学校の地域学習の一環として、平成 28 年5月 31 日、6月 1 日に（仮称）新小谷木橋下部工工事の現場見学会を開催しました。

現場見学会には、羽田小学校の児童（5月 31 日：5年生 26 名、6月 1 日：6年生 26 名）が参加し、小谷木橋の歴史や事業計画等を学んだ後、工事が進む（仮称）新小谷木橋の下部工（P3）の現場を間近で見学しました。

また、現場見学会では、（仮称）新小谷木橋の下部工（P3）の基礎部に、羽田小学校児童が「未来の羽田地区に託す願い」をペイントしました。

奥州市と一関市にまたがる北上山地のエリアは、国際リニアコライダー（ILC）の建設候補地になっていることもあり、児童の皆さんは「ILC の誘致が成功し羽田も人口が増え住みやすい町になってほしい」、「ILC ができて水沢江刺駅が ILC の玄関口になってほしい」など、未来の羽田地区を思いうかべながら楽しそうにペイントしていました。

児童の皆さんが書いた「未来の羽田地区に託す願い」のペイントは、下部工工事が進むと見えなくなってしまいますが、橋梁完成後も橋の一部として残り続けますので、（仮称）新小谷木橋を将来に渡り身近な社会資本として感じていただくことを期待しています。

羽田小学校5年生



羽田小学校6年生



【問合せ先】

岩手県 県南広域振興局土木部

〒023-0053 岩手県奥州市水沢区大手町 1-2 電話番号：0197-22-2881

○ 事業全般及び工事に関する事 こと：道路整備課 道路整備チーム（内線 321）

○ 用地補償に関する事 こと：用地課 用地チーム（内線 317）



第71回国民体育大会 広げよう 感動。伝えよう 感謝。